

別府溝部学園短期大学自己点検・評価について ―平成 25 年度―
～学生による授業評価～

牧 昌生（別府溝部学園短期大学）

The Report of the 2013 Self-Study and Evaluation at
Beppu Mizobe Gakuen College

Masao Maki (Beppu Mizobe Gakuen College)

はじめに

中央教育審議会は「教育の質」の確保・向上を高等教育機関に求めている。教員が授業を行うにあたり、多様な学生のニーズに応える教育を創造し提供し続けなければならない。

現実に、大学・短期大学は既に全入時代を迎え、幅の広い学生を受け入れてきている。向学心・向上心が旺盛な学生ばかりではない。目的意識が希薄な学生も入学してきている。

このような中、本学では「アクティブラーニング教育」を全学科に積極的に取り入れ、学生の学ぶ目的意識を明確にし、授業改善を推進している。あわせて、教員は学生の学力や意識、受講態度、理解力等を的確に把握し、その状況に応じて授業内容・方法を改善して行かなければならない。しかし、教員の一方的授業分析では、誤った判断をしている可能性は否定できない。そのため、各教員の授業について、受講している学生からの情報が必要になってくる。

学生による授業の評価は、別府溝部学園短期大学では、平成 5 年度から自己点検評価委員会を発足させて検討を行ってきた。平成 1 2 年度からは全教科（専任・非常勤講師を問わない）を対象として、マークシート方式で調査を行ってきた。また、平成 1 7 年度からは学内 LAN を利用した Web により、全学生による授業評価を行ってきた。

それらの結果を各教科毎に各教員に、その評価情報・結果が提供され、その分析を個々に行い授業の改善・工夫の努力が行われ、学生の受講意識、理解度等の向上がなされてきている。本学の建学の精神である「自立・自活できる人材の育成」をめざし、各授業担当者が学生の琴線にふれるべく常に創意工夫を凝らした授業を創造している。

そこで、平成 2 5 年度の全学科、全開講科目に対する学生による授業評価の結果について検討した。

1. 調査内容および方法

平成 25 年度の「学生による授業評価」は、本学の学内 LAN を利用した Web での「デジタルキャンパス」を利用したシステムでの評価法により、下記の 10 項目の評価項目について実施した（表 1）。「教員による自己評価」も上記と同様に行った。

表 1 学生による点検項目

Q 1	この授業はわかりやすかった
Q 2	学習内容に興味や関心が持てた
Q 3	学習内容の分量は適切だった
Q 4	教員の教え方に工夫が感じられた
Q 5	教員は熱心に教えていた
Q 6	授業中どの学生にも公平に接していた
Q 7	いつも集中して聴けた
Q 8	私語をつつしんだ
Q 9	遅刻、欠席がないよう心がけた
Q10	意欲的に取り組んだ

教員による自己評価も従来通り下記の 10 項目で行った（表 2）。

表 2 教員による自己評価

Q 1	学生は授業を理解した
Q 2	授業の事前準備は、十分おこなった
Q 3	学生の興味・関心を喚起するように心がけた
Q 4	各種教材（視聴覚機器・教科書等）を有効に活用した
Q 5	授業の開始・終了時刻を守った
Q 6	授業中どの学生にも公平に接した
Q 7	出欠確認を適切におこなった
Q 8	授業目的を達成した
Q 9	授業要項（シラバス）の記載内容は現状のままでよい
Q10	学生のことが理解できた

平成 25 年度授業評価として、表 1 の Q1 から Q10 の質問に対し、下表のとおり 5 段階で評価させた。また、全学科の集計値（表 3 及び表 4）を各評価項目について、肯定的評価及び否定的評価に分類し、図 1 及び図 2 のグラフで示した。

1 とてもそう思う	肯定的評価
2 だいたいそう思う	
3 どちらとも言えない	否定的評価
4 あまりそう思わない	
5 まったくそう思わない	

結果及び考察

○全体評価

・前期

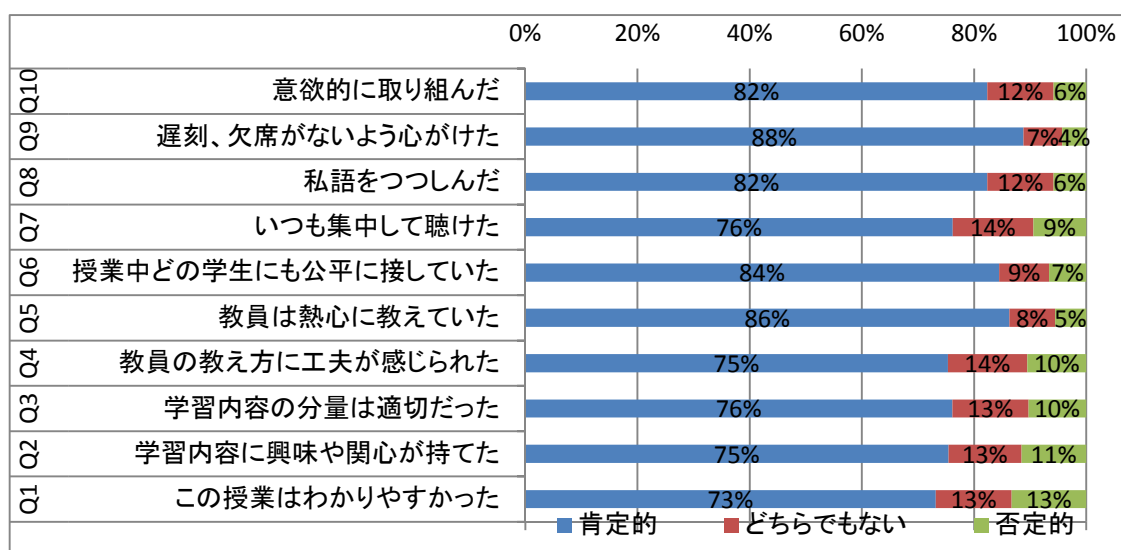
表3から、学生の授業評価は、すべての質問項目で「とてもそう思う」が昨年度（平成24年度）同様に50%を超え、特に、Q9（遅刻、欠席がないよう心がけた）は80%で積極的に授業に参加しようとする姿勢が伺える。Q7（いつも集中して聴けた）58%は多少注視しなければならないが、総じて、学生側の項目は高率であり、真面目に授業に取り組んでいる姿が伺える。

図1の学生による授業満足度を集計したグラフより「だいたいそう思う」を含めた肯定的評価レベルでは、学生の受講意識を問う項目は概ね80%以上を示している。このことは本学の就業に向けた学習の意識付けがしっかりできていることに他ならない。教員の授業方法や内容を問う項目においては、全項目75%程度の肯定的評価となっていることは、教員の本学学生の目指している方向性に合致した教育内容を行い、学生の理解度を考慮した授業方法を行っていることと言える。しかし、この授業はわかりやすかったの項目で13%の学生が否定的評価をしており、教員の教え方を始め教員側の項目に対し10%程度の学生が否定的な回答をしていることは、理解度が不足している学生がいることを教員は自覚しなければならない。しかし、熱心に教えていたとの問いに対し否定的な回答は5%と低く教員の姿勢は良いと考えられる。これらのことから、教員の授業運営及び学生に対する姿勢と学生の心構えが相互に触れあい、自己実現に向けた教育活動が適切に推進されていると考えられる。

表3 全体評価（前期）

全体評価		(前期)					無回答
		とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	
Q1	この授業はわかりやすかった	57%	18%	12%	6%	6%	1%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	58%	19%	12%	6%	5%	1%
Q3	学習内容の分量は適切だった	58%	19%	13%	5%	4%	1%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	60%	17%	13%	5%	4%	1%
Q5	教員は熱心に教えていた	70%	16%	8%	2%	3%	1%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	68%	16%	9%	3%	3%	1%
Q7	いつも集中して聴けた	58%	20%	13%	5%	4%	1%
Q8	私語をつつしんだ	67%	17%	10%	3%	3%	1%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	80%	9%	7%	2%	1%	1%
Q10	意欲的に取り組んだ	64%	19%	11%	3%	2%	1%

図 1 学生による授業満足度（前期）



後期

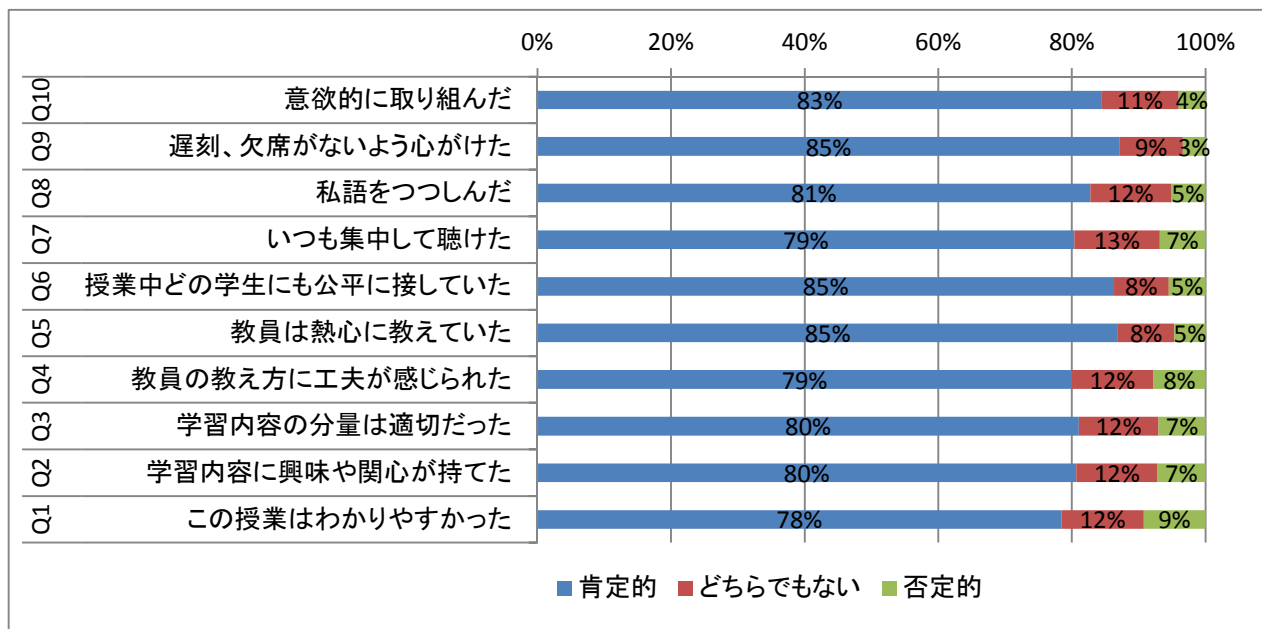
表 4 から、「とてもそう思う」評価では、Q10（意欲的に取り組んだ）が前期 64% から 68%と学生の受講意識が積極的に変化が認められた。教員への評価においても、Q1（この授業はわかりやすかった）が 55%から 68%へ、Q2（学習内容に興味や関心がもてた）は 57%から 61%、Q4（教員の教え方に工夫が感じられた）が 60%から 63%、Q2（学習の内容に興味や関心が持てた）が、58%から 63%といずれも増加している。肯定的評価も前期は 75%程度だったが、後期は 80%程度に上昇している。これらのことから教員の在学生の学力を把握し、能力に応じた授業を展開していることを裏付けている。あわせて、学生も自らの進路を明確に意識し、授業の位置づけが理解できてきていることである。

図 2 の学生による授業満足度を集計したグラフより「だいたいそう思う」を含めた肯定的評価レベルでは、学生の受講意識を問う項目はいずれも 80%以上を示しており、前期よりもいずれも数%増加している。特に前期において否定的評価が 13%であった Q10（この授業はわかりやすかった）が後期では 9%と減少している。これは前期において学生の自らの評価を教員が自覚し、理解度の低い学生への丁寧な講義に修正したことがこの結果として表れている。この結果から学生による教員の授業評価が、教員の授業の質の向上に結びついていることとして、今後も続ける必要がある。

表 4 全体評価（後期）

全体評価		(後期)					
		とても 思う	だいたい 思う	どちらとも 言えない	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	無 回 答
Q1	この授業はわかりやすかった	61%	20%	11%	5%	3%	1%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	63%	19%	11%	4%	2%	1%
Q3	学習内容の分量は適切だった	63%	19%	11%	4%	3%	1%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	63%	18%	11%	4%	3%	1%
Q5	教員は熱心に教えていた	71%	16%	8%	3%	1%	1%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	70%	16%	8%	3%	2%	1%
Q7	いつも集中して聴けた	62%	19%	11%	4%	2%	1%
Q8	私語をつつしんだ	68%	15%	11%	3%	2%	1%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	78%	9%	8%	2%	1%	2%
Q10	意欲的に取り組んだ	68%	17%	10%	3%	1%	2%

図2 学生による授業満足度（後期）



- 学科間の比較
- ・ 前期

表5から学科間の特徴を見てみると、学生の理解度を示すQ1、Q2で比較すると、演習や実習等の体験的授業が多い、介護福祉学科の肯定的評価が80%以上を示し、講義科目が比較的多い食物栄養学科の肯定的評価が60%台と低くなっている。教員の教育態度を示すQ5、Q6は、肯定的評価として全学科80%を超えている。このことから、食物栄養学科の講義科目（内容）が化学や生物の基礎的知識があることを前提としての授業展開を行っており、高等学校でこれらの科目の受講が不十分な学生が入学してきていることもこの結果となっていると考えられる。そのため、今後は入学前教育や入学後の早期の基礎的学習を必要としている。幼児教育学科の学生の受講に向かう意識が昨年度に比べやや低い傾向にある。新任教員の学生との距離感がまだつかめていないことも数値に出ていることが考えられる。将来の就業意識や進路に対して、この学科の教育課程に国家資格を取得するという、明確な目標を今一度教員及び学生が再認識する必要がある。

表5 全体評価（前期・学科間比較）

全体評価（前期・学科間比較）

	4+5 [肯定的評価]					3					1+2 [否定的評価]				
	ライフ	食物	幼教	介護	平均	ライフ	食物	幼教	介護	平均	ライフ	食物	幼教	介護	平均
Q1	72%	64%	68%	87%	73%	12%	18%	16%	8%	13%	16%	17%	16%	4%	13%
Q2	70%	67%	71%	91%	75%	14%	17%	15%	5%	13%	15%	15%	13%	3%	11%
Q3	77%	68%	69%	88%	76%	12%	17%	18%	7%	13%	10%	14%	12%	5%	10%
Q4	74%	67%	70%	89%	75%	16%	18%	16%	7%	14%	11%	14%	13%	4%	10%
Q5	86%	81%	81%	94%	86%	7%	11%	11%	3%	8%	6%	7%	7%	2%	5%
Q6	86%	81%	76%	93%	84%	8%	10%	13%	4%	9%	5%	8%	10%	3%	7%
Q7	73%	68%	72%	90%	76%	17%	19%	16%	5%	14%	10%	12%	11%	5%	9%
Q8	74%	81%	78%	94%	82%	18%	13%	13%	3%	12%	7%	5%	8%	3%	6%
Q9	84%	86%	85%	97%	88%	8%	8%	10%	2%	7%	8%	5%	4%	0%	4%
Q10	78%	75%	77%	96%	82%	13%	17%	15%	2%	12%	7%	7%	8%	2%	6%

・後期

表6から、肯定的評価に関して学科別に見ると、他学科に比して若干厳しい評価が出ていた食物栄養学科や幼児教育学科では、学生の授業に取り組む意欲を示す割合が、肯定的評価として75%以上に大幅な改善している。ライフデザイン総合学科はいつでも肯定的評価は80%を超えている。しかし、介護福祉学科は前期には多くの項目で90%を超えていた肯定的評価が、後期には80%を下回る回答が示されていることは、教員の教育方法や学生との信頼関係が崩れていることも考えられることから、早期の改善を必要とする。

表6 全体評価（後期・学科間比較）

全体評価（後期・学科間比較）

	4+5 [肯定的評価]					3					1+2 [否定的評価]				
	ライフ	食物	幼教	介護	平均	ライフ	食物	幼教	介護	平均	ライフ	食物	幼教	介護	平均
Q1	81%	75%	76%	78%	78%	8%	13%	13%	14%	12%	9%	11%	9%	7%	9%
Q2	81%	78%	77%	83%	80%	9%	13%	14%	11%	12%	8%	8%	7%	5%	7%
Q3	86%	81%	76%	77%	80%	7%	11%	15%	14%	12%	5%	7%	8%	9%	7%
Q4	84%	76%	76%	80%	79%	8%	12%	15%	13%	12%	6%	11%	7%	7%	8%
Q5	88%	85%	83%	86%	85%	4%	8%	11%	10%	8%	4%	6%	5%	4%	5%
Q6	92%	83%	80%	86%	85%	3%	8%	12%	8%	8%	3%	8%	6%	5%	5%
Q7	81%	77%	76%	83%	79%	10%	14%	16%	11%	13%	7%	8%	7%	5%	7%
Q8	78%	83%	75%	89%	81%	14%	10%	15%	8%	12%	5%	5%	7%	3%	5%
Q9	82%	87%	80%	93%	85%	10%	8%	12%	6%	9%	4%	3%	5%	1%	3%
Q10	82%	81%	77%	91%	83%	9%	14%	15%	7%	11%	4%	5%	6%	2%	4%

以上のことから、全体的には、今年度も学生の授業に対する満足度はかなり高いレベルで推移してきたものと思われる。幅の広い学生層に誠実に対面し、適切な授業の提供に意を用いた教員の努力の賜であろう。この結果に満足することなく、教える立場の教員は、常に、自らの授業を冷静に見つめ、学生の実態に即したものになっているか、学習者を中心に据えた授業になっているか等、シビアな自己評価・授業評価を行い、真摯な態度で授業改善に取り組むことが必要であろう。その際、個人として授業研究を行うことはもちろん重要であるが、学科やグループ等で組織的に研究活動を行い、PDCAの継続的取り組みが大切であると考えます。

○学科別授業評価

以下、学科・学年ごとに考察を加える。ただし、留学生については、学科の枠を取り払って学年単位でまとめて集計している。

1. ライフデザイン総合学科 1年

前期（表7、図3）、後期（表8、図4）に示しているとおおり、前期の満足度（肯定的評価）は概ね70%である。後期は85%程度に上昇している。特に教員の授業状況については、90%と学生は教員に良い評価を与えている。しかし、学生の受講意欲は、前期に比べ後期は10%程度の増加が認められる。学習内容は、興味関心が持てたが10%以上の増加が認められることから、教員の努力が認められ学生も目標が明確になり学習意欲が増してきていることが推察される。

表7 ライフデザイン総合学科 1年 前期

ライフデザイン総合学科1年		(前期)					
		とても そう 思う	だ いた い そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
Q1	この授業はわかりやすかった	46%	18%	15%	11%	10%	0%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	46%	17%	18%	10%	9%	0%
Q3	学習内容の分量は適切だった	53%	19%	16%	6%	7%	0%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	53%	16%	19%	6%	6%	0%
Q5	教員は熱心に教えていた	66%	17%	9%	3%	4%	1%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	68%	15%	10%	2%	3%	2%
Q7	いつも集中して聴けた	43%	23%	22%	6%	5%	0%
Q8	私語をつつしんだ	51%	20%	20%	5%	4%	0%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	73%	13%	7%	2%	4%	1%
Q10	意欲的に取り組んだ	50%	23%	17%	5%	4%	1%

表 8 ライフデザイン総合学科 1年 後期

ライフデザイン総合学科1年		(後期)					
		とても そう 思う	だ いた い そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
Q1	この授業はわかりやすかった	61%	21%	9%	7%	3%	0%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	64%	17%	11%	5%	3%	0%
Q3	学習内容の分量は適切だった	69%	19%	7%	1%	2%	1%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	67%	20%	6%	4%	2%	0%
Q5	教員は熱心に教えていた	77%	14%	4%	2%	2%	2%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	80%	14%	4%	1%	2%	0%
Q7	いつも集中して聴けた	56%	24%	11%	5%	3%	1%
Q8	私語をつつしんだ	67%	17%	10%	3%	3%	0%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	72%	14%	9%	4%	1%	0%
Q10	意欲的に取り組んだ	60%	22%	12%	3%	1%	1%

図 3 ライフデザイン総合学科 1年 (前期満足度)

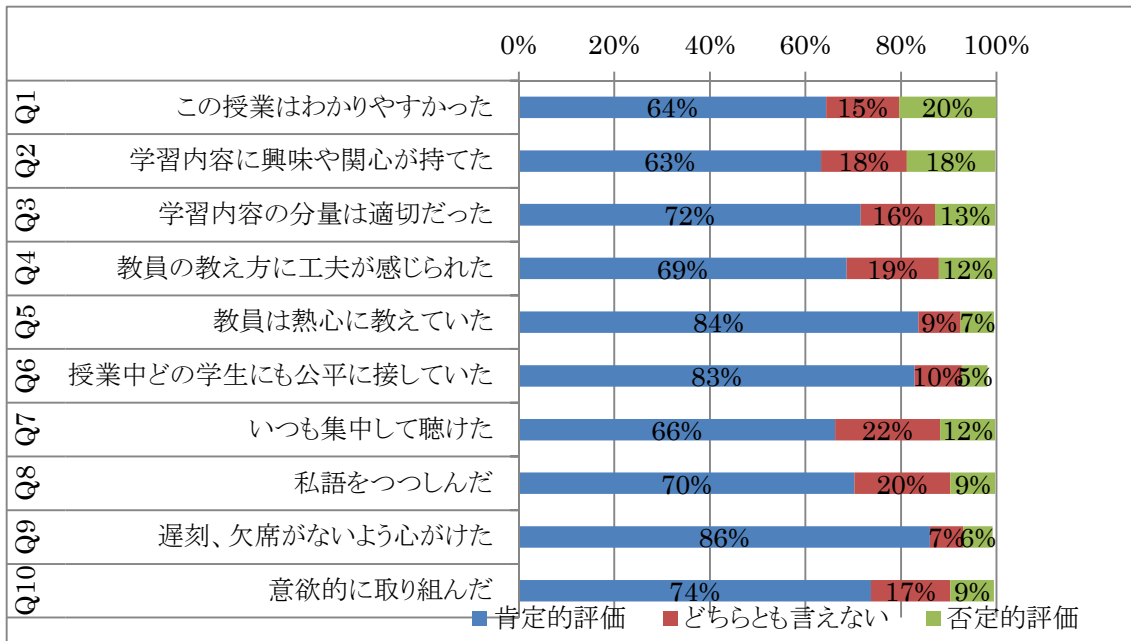
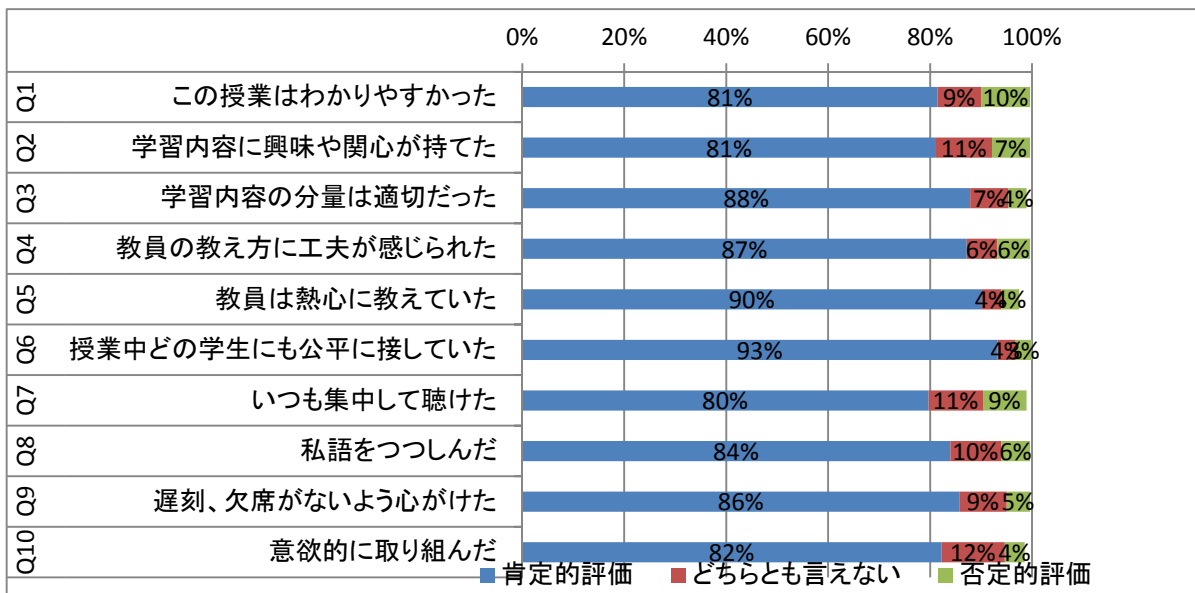


図 4 ライフデザイン総合学科 1 年（後期満足度）



2. ライフデザイン総合学科 2年

前期（表 9、図 5）、後期（表 10、図 6）に示しているとおりに、前期の満足度（肯定的評価）の傾向は 1 年次生後期の傾向と同様、学生の満足度が高い傾向を示している。新年度を迎え教員の意欲は旺盛で、学生に求める内容が、受け手の学生に伝わっていることが認められる。しかし、ごく少数の学生が適応できていない数値も見受けられることから、教員側も注意を必要とする。後期においても、前期同様に学生の満足度は高い。授業のなかや、多くのイベント参加、特にファッションショー、卒業制作展へ向けて、個々の作品の制作物の完成を目指していることもあり、学生の専門職を目指すモチベーションを維持できていることが伺える。

表 9 ライフデザイン総合学科 2年 前期
ライフデザイン総合学科2年 (前期)

	とても そう 思う	だ いた い そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	66%	22%	4%	4%	4%	0%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	60%	25%	7%	5%	3%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	67%	23%	5%	2%	3%	0%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	65%	20%	7%	4%	4%	0%
Q5 教員は熱心に教えていた	68%	24%	3%	2%	1%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	76%	17%	4%	3%	1%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	57%	30%	7%	4%	1%	1%
Q8 私語をつつしんだ	51%	32%	14%	1%	1%	2%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	61%	18%	9%	10%	2%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	64%	24%	6%	2%	1%	2%

10 ライフデザイン総合学科 2年 後期

ライフデザイン総合学科2年 (後期)

	とても 思う	だいたい 思う	どちら とも言 えない	あま りそう 思わ ない	ま った く 思 わ な い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	65%	15%	7%	6%	1%	5%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	66%	16%	5%	6%	1%	5%
Q3 学習内容の分量は適切だった	66%	16%	6%	5%	1%	5%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	60%	18%	12%	3%	1%	5%
Q5 教員は熱心に教えていた	69%	16%	4%	3%	1%	6%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	76%	14%	2%	2%	1%	5%
Q7 いつも集中して聴けた	56%	27%	9%	2%	1%	5%
Q8 私語をつつしんだ	44%	21%	22%	3%	0%	11%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	60%	14%	13%	3%	0%	11%
Q10 意欲的に取り組んだ	65%	18%	3%	2%	1%	12%

図5 ライフデザイン総合学科2年 (前期満足度)

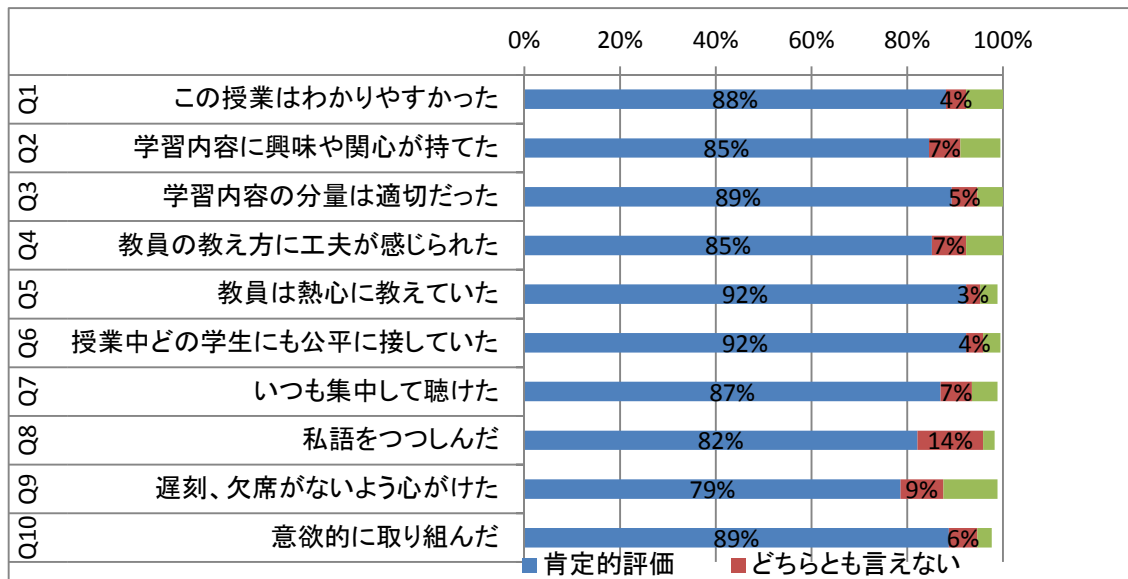
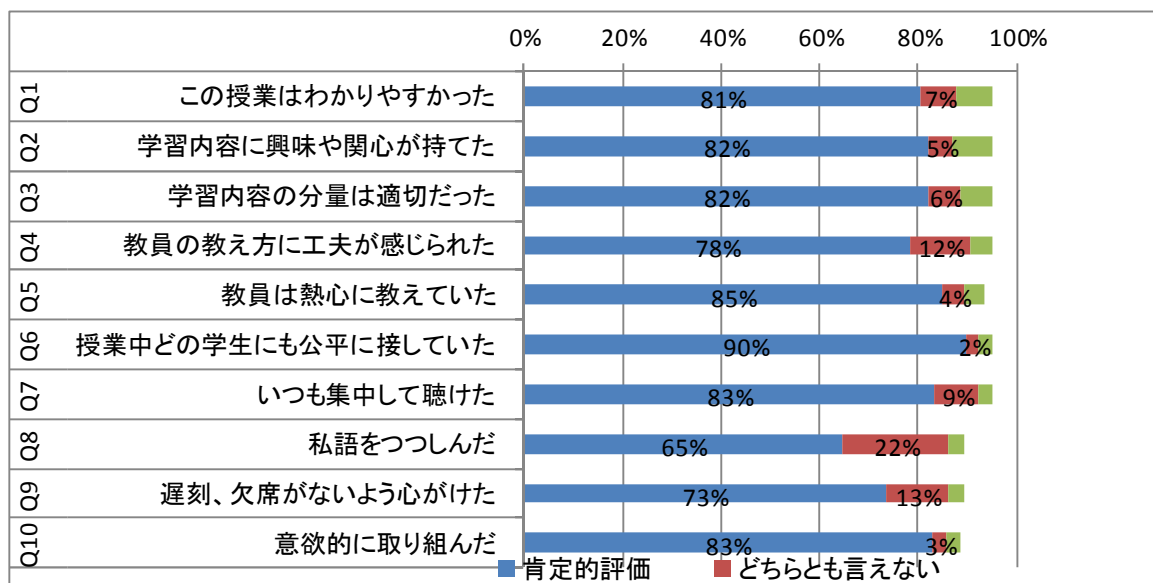


図 6 ライフデザイン総合学科 2 年（後期満足度）



3. 食物栄養学科 1 年

前期（表 11、図 7）、後期（表 12、図 8）に示しているとおおり、前期の満足度において、教員の授業への向かい方については学生の 20%程度は否定的に見ている。昨年度の評価ではこの項目は高い数値であったが、今年度は大きく数値を低くしている。教員の移動はなく、教育内容の大幅な変更もないことから、平成 25 年度 1 年次生の学力の変化に教員が対応できていないため、学生の理解が進まず不満を訴えているものが相対的に増加していると考えられる。高校時代に化学や生物を履修できていない学生が比較的多いこともこの結果と比例している。教員は教科書に準拠した授業ではなく、学生の理解度を常に確認しながらの教授方法の工夫が必要である。後期に入ると、前期に学んだ内容の延長線上の科目が多くなることもあり、学生の興味関心は高まり、理解度も向上している。前期に比べ教員への否定的評価をしていた学生が半減していることも認められる。教員の努力が結果として出てきたと認められる。

表 11 食物栄養学科 1 年 前期

食物栄養学科1年 (前期)

	とても 思う	だいた いそう 思う	どち らとも 言え ない	あま りそ う思 わな い	ま った くそ う思 わな い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	32%	25%	18%	11%	11%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	32%	28%	17%	12%	9%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	36%	26%	16%	11%	9%	2%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	35%	24%	20%	11%	8%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	46%	28%	13%	4%	7%	2%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	51%	24%	11%	5%	7%	2%
Q7 いつも集中して聴けた	36%	23%	22%	10%	8%	1%
Q8 私語をつつしんだ	59%	18%	14%	4%	3%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	77%	10%	5%	5%	1%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	43%	25%	20%	7%	4%	2%

表 12 食物栄養学科 1年 後期
食物栄養学科1年 (後期)

	とても 思う	だいた いそう 思う	どち らとも 言え ない	あま りそ う思 わな い	ま った くそ う思 わな い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	39%	33%	15%	7%	6%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	39%	35%	16%	5%	4%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	41%	37%	14%	3%	4%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	36%	36%	15%	5%	7%	2%
Q5 教員は熱心に教えていた	51%	31%	10%	3%	4%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	50%	29%	12%	3%	5%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	41%	31%	19%	5%	4%	1%
Q8 私語をつつしんだ	54%	25%	13%	3%	4%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	76%	10%	9%	2%	1%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	47%	29%	18%	3%	2%	1%

図 7 食物栄養学科 1年 (前期満足度)

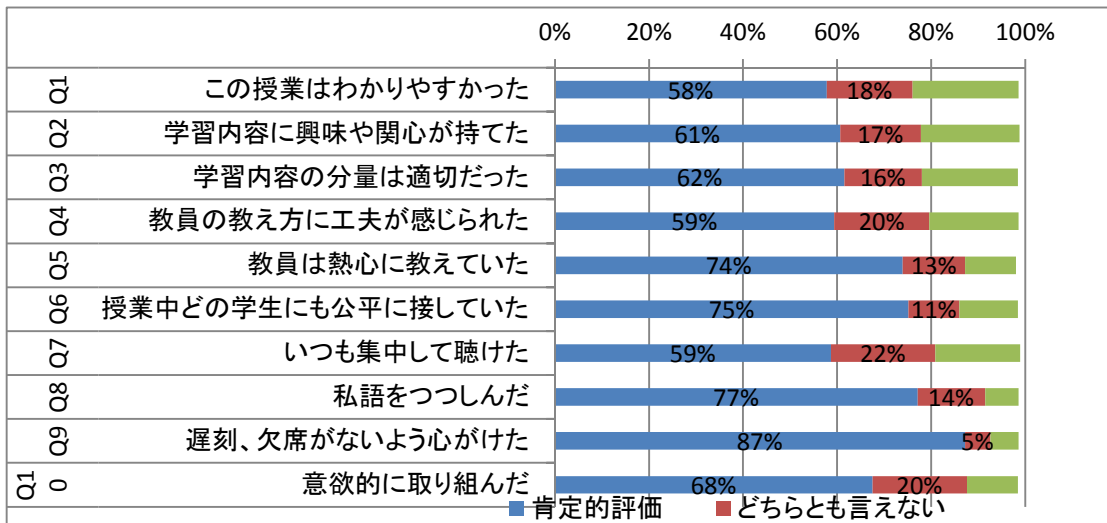
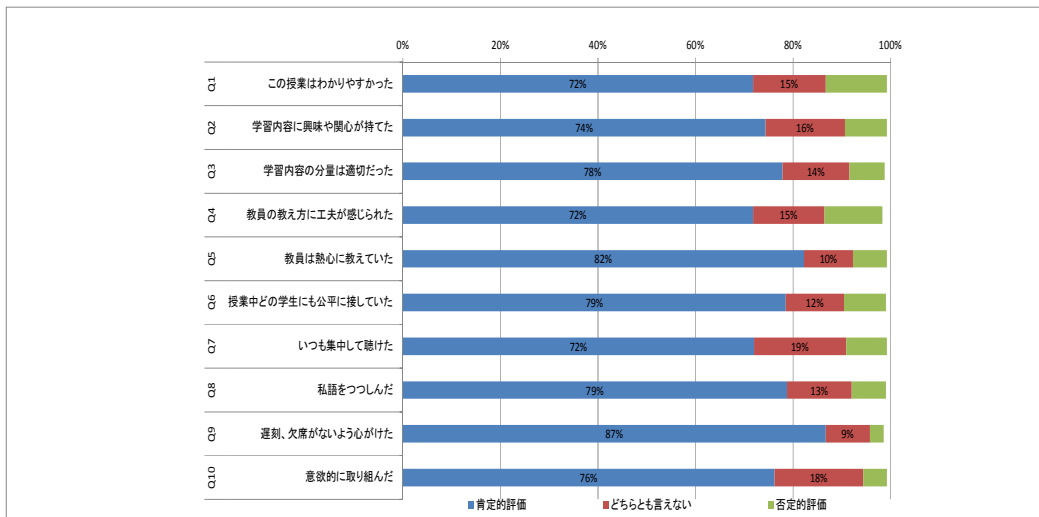


図 8 食物栄養学科 1 年（後期満足度）



4. 食物栄養学科2年

前期（表 13、図 9）、後期（表 14、図 10）に示しているとおりに、前期の満足度（肯定的評価）において、教員への評価は 75%程度、学生自身は 85%程度となっており、平成 24 年度の評価に比べ 10%以上満足度は高い。不満を示す学生もほとんど認められないことから、教員と学生の信頼関係が高い水準で構築されていることが伺える。

後期の結果は、教員および学生自身の肯定的評価は、前期の数値に 10%程度高い評価として出されている。これは、8月学外実習をとおして自らの職業への夢が現実として捉えられるようになり、就職活動も順調に進んでいることが高い評価へと繋がっていると思われる。ここに至るまでの教員の努力は評価したい。

表 13 食物栄養学科2年（前期）

食物栄養学科2年（前期）

	とても 思う	だいたい 思う	どちらとも 言えない	あまり 思わない	まったく 思わない	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	48%	24%	18%	7%	2%	0%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	52%	25%	17%	5%	1%	0%
Q3 学習内容の分量は適切だった	51%	25%	18%	4%	1%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	55%	22%	15%	7%	0%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	66%	24%	8%	1%	0%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	64%	24%	10%	2%	0%	0%
Q7 いつも集中して聴けた	57%	22%	15%	4%	0%	1%
Q8 私語をつつしんだ	69%	18%	10%	2%	0%	0%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	72%	12%	11%	3%	1%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	60%	25%	12%	1%	0%	1%

表 14 食物栄養学科2年（後期）

食物栄養学科2年 (後期)

	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	56%	24%	10%	6%	3%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	64%	20%	9%	7%	1%	0%
Q3 学習内容の分量は適切だった	64%	23%	7%	5%	0%	0%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	63%	19%	8%	8%	2%	0%
Q5 教員は熱心に教えていた	70%	19%	6%	4%	0%	0%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	66%	23%	3%	5%	1%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	67%	17%	6%	8%	1%	1%
Q8 私語をつつしんだ	74%	17%	6%	3%	0%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	75%	13%	7%	4%	0%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	65%	23%	7%	5%	0%	1%

図9 食物栄養学科2年 (前期満足度)

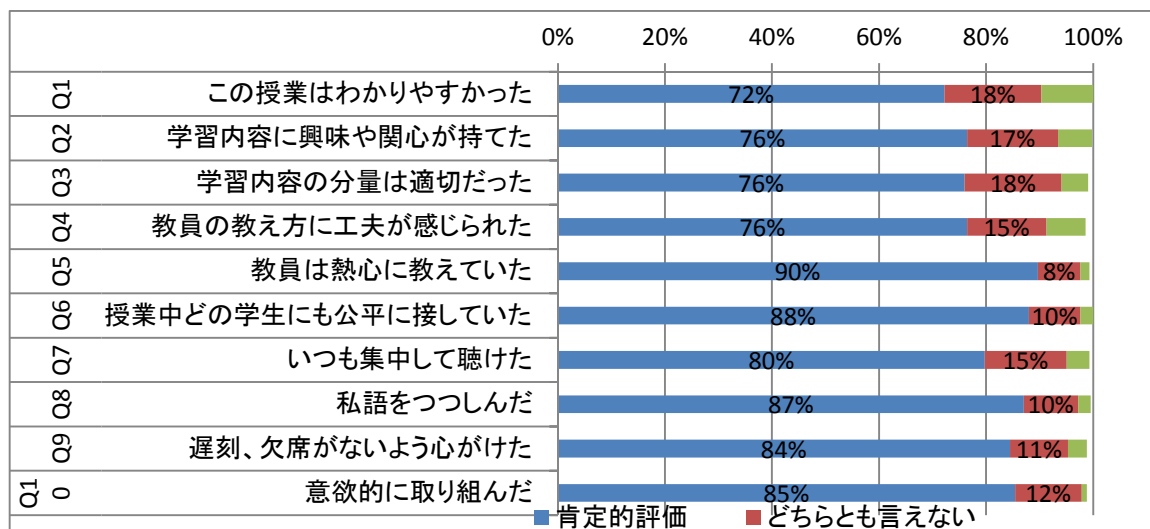
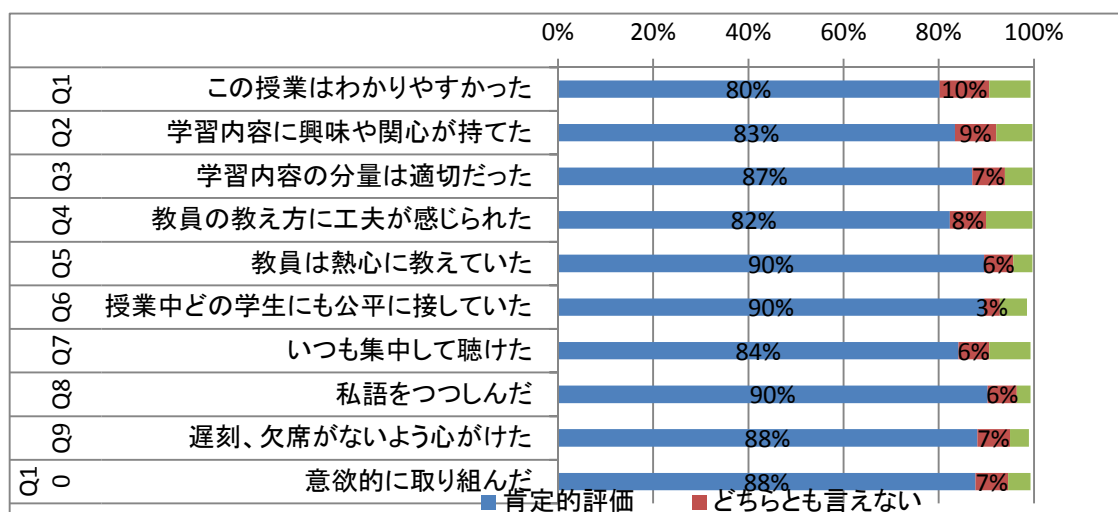


図 10 食物栄養学科 2 年（後期満足度）



5. 幼児教育学科 1 年

前期（表 15、図 11）、後期（表 16、図 12）に示しているとおおり、前期の満足度（肯定的評価）において、学生の受講意欲は旺盛である。しかし、教員に対する評価は、否定的印象を示す学生が 20%程度存在する。集中力、私語の多さは幼児教育学科の学生の特徴とも言えるが、教員の授業運営にも問題があるのではないだろうか。教員の教え方の工夫についても評価は高くない。授業がわかりにくいという学生が 22%いることにも教員は注意を払うべきである。今年度はベテラン教員から新任教員への入れ替わりもあり、経験不足から授業の成果が出ていないことも原因として浮かんでいる。

後期になると教員への肯定的評価は何れも 10%以上向上している。あわせて否定的評価が半減しただけでなく、どちらでもないという感動を与えていない評価が大きく減少しこの数値が肯定的評価へととなっていることは、大きな進歩である。後期は幼児教育学科の最も大きなイベントである「ミュージック・カーニバル」が催される。学生自身が園児を前にして、これまで学んできたことを表現する場であることから、学生の将来の夢である、幼稚園教諭、保育士の職場を確認できることが、各授業の位置づけを確認できたとも言える。このことから、1 年次生前後に学生の進路に関する確認の場を設けることも必要となる。

表 15 幼児教育学科 1 年（前期）

幼児教育学科1年

(前期)

	とても 思う	だいた いそう 思う	どち らとも 言え ない	あま りそ う思 わな い	ま った くそ う思 わな い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	42%	17%	19%	10%	12%	0%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	41%	22%	19%	8%	10%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	41%	21%	21%	7%	9%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	41%	20%	20%	9%	10%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	53%	21%	15%	5%	5%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	49%	19%	17%	6%	7%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	40%	27%	18%	6%	7%	1%
Q8 私語をつつしんだ	51%	21%	16%	5%	6%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	72%	12%	12%	2%	2%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	47%	25%	17%	5%	5%	0%

表 15 幼児教育学科 1年 (後期)

幼児教育学科1年

(後期)

	とても 思う	だいた いそう 思う	どち らとも 言え ない	あま りそ う思 わな い	ま った くそ う思 わな い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	55%	21%	12%	5%	5%	2%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	54%	23%	13%	4%	4%	2%
Q3 学習内容の分量は適切だった	54%	20%	13%	5%	4%	3%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	53%	22%	15%	4%	4%	2%
Q5 教員は熱心に教えていた	63%	18%	11%	3%	2%	2%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	60%	20%	12%	3%	3%	2%
Q7 いつも集中して聴けた	53%	23%	15%	5%	3%	2%
Q8 私語をつつしんだ	58%	16%	15%	7%	3%	2%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	73%	8%	11%	3%	2%	3%
Q10 意欲的に取り組んだ	60%	17%	13%	5%	2%	2%

図 11 幼児教育学科 1 年（前期満足度）

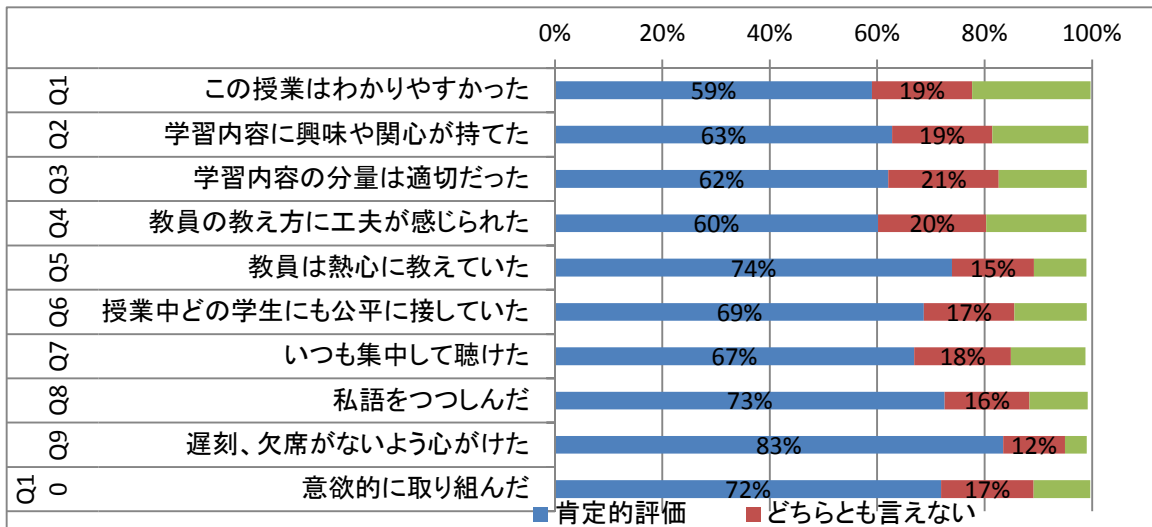
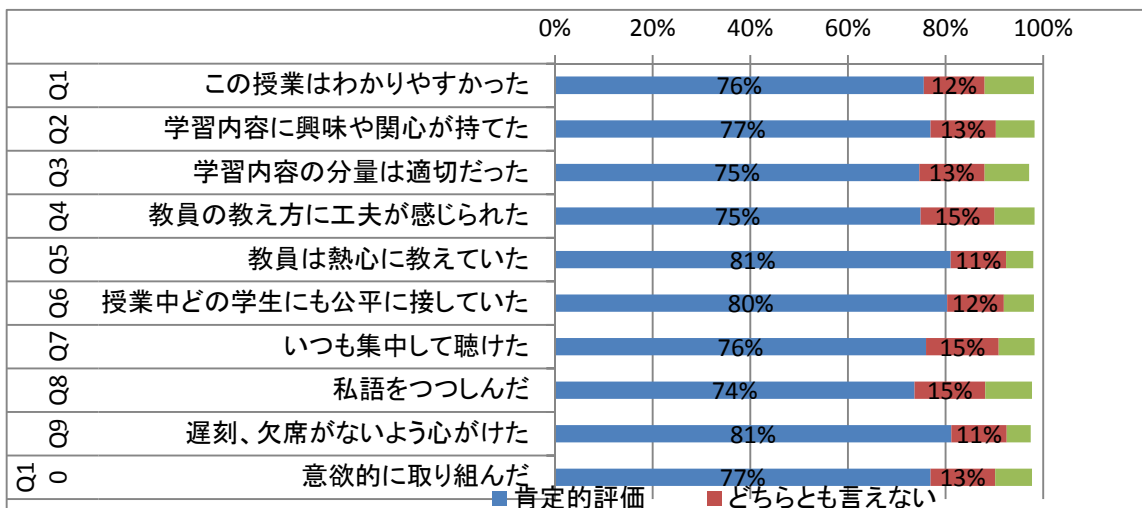


図 12 幼児教育学科 1 年（後期満足度）



6. 幼児教育学科 2 年

前期（表 17、図 13）、後期（表 18、図 14）に示しているとおおり、前期の満足度（肯定的評価）において、教員の授業に対する評価は概ね高い。学生の受講意欲は旺盛である。全ての項目で否定的評価は数%であり、学生の満足度は高い。

後期は全ての項目で前期の評価に比べ 5%を超える肯定的評価（とてもそう思う）の低下が認められる。後期には幼児教育学科のミュージックカーニバルが行われ、かつ、2年次生の就職も内定（決定）が出され、学生自身の就職先と現在の学習内容が一致していることも、満足度の高い結果となっているが、新任教員への入れ替わりが2年次生にとっては、昨年のベテラン教員との比較で若干満足度が低下していることも伺える。学生の学ぶ意欲が高いだけに、新任教員の一層の努力を期待したい。

表 17 幼児教育学科 2年 (前期)
幼児教育学科2年 (前期)

	とても そう 思う	だ い た い そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	61%	22%	11%	3%	2%	0%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	63%	22%	9%	3%	2%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	60%	21%	13%	4%	2%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	66%	18%	10%	3%	2%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	78%	13%	5%	1%	1%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	72%	15%	7%	3%	2%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	57%	24%	13%	4%	2%	1%
Q8 私語をつつしんだ	63%	23%	9%	3%	1%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	76%	11%	9%	2%	1%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	65%	20%	11%	2%	1%	1%

表 18 幼児教育学科 2年 (後期)

幼児教育学科2年

(後期)

	とても 思う	だいた いそう 思う	どち らとも 言え ない	あま りそ う思 わな い	ま った くそ う思 わな い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	54%	22%	14%	6%	3%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	56%	21%	16%	4%	2%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	55%	22%	17%	4%	2%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	58%	19%	16%	5%	1%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	67%	18%	11%	3%	1%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	60%	19%	13%	4%	2%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	53%	23%	17%	5%	2%	1%
Q8 私語をつつしんだ	56%	22%	17%	3%	1%	2%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	67%	12%	14%	5%	1%	2%
Q10 意欲的に取り組んだ	57%	21%	17%	2%	1%	2%

図 13 幼児教育学科 2 年（前期満足度）

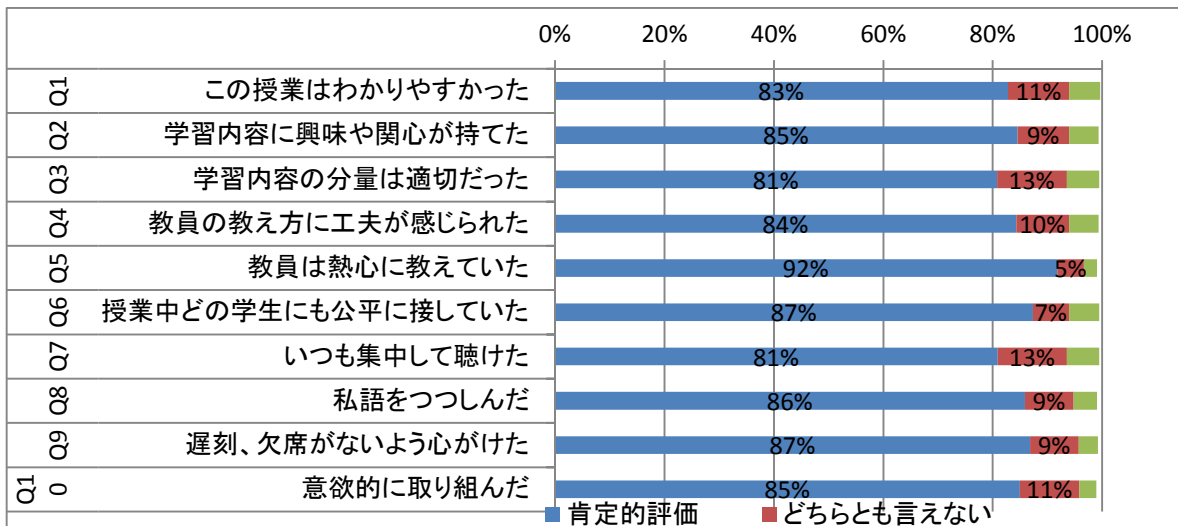
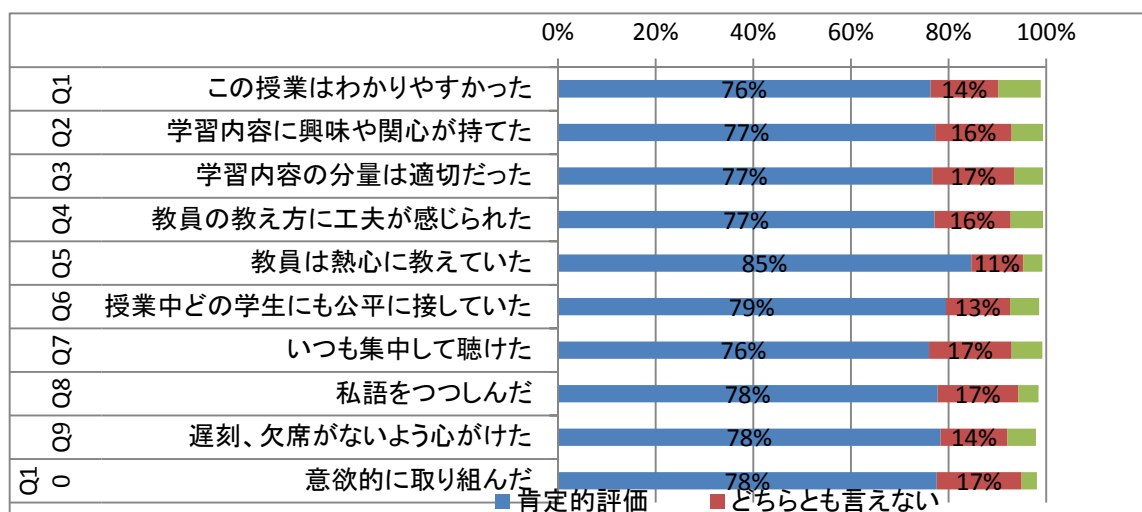


図 14 幼児教育学科 2 年（後期満足度）



7. 介護福祉学科 1 年

前期（表 19、図 15）、後期（表 20、図 16）に示しているとおおり、前期の満足度（肯定的評価）において、教員の授業に対する評価は概ね高い。学生の受講意欲は旺盛である。全ての項目ので否定的評価は数%であり、学生の満足度は高い。学生の入学の目的である介護福祉士資格の取得と授業内容が一致していることも原因の一つである。

後期は一転して教員への評価は 15%以上「とてもそう思う」が激減している。学生自身の学習意欲も同様に激減している。肯定的評価は 90%以上と高く見えているが、後期に入りいよいよ介護福祉士を目指し意欲が向上する時期に、両者とも評価を下げていることは、緊急の課題と言える。全ての教員が学生と真摯に向き合って、学生の不満の原因を探り、改善への対策をとる必要がある。

表 19 介護福祉学科 1 年（前期）

介護福祉学科1年 (前期)

	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	65%	20%	9%	3%	1%	2%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	73%	18%	5%	2%	1%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	63%	23%	8%	3%	2%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	73%	15%	7%	2%	2%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	81%	12%	3%	2%	1%	0%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	75%	15%	5%	2%	2%	0%
Q7 いつも集中して聴けた	70%	20%	5%	2%	3%	0%
Q8 私語をつつしんだ	80%	12%	4%	2%	2%	0%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	92%	5%	1%	0%	1%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	82%	13%	2%	2%	0%	0%

表 20 介護福祉学科 1年 (後期)
介護福祉学科1年 (後期)

	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	48%	24%	18%	7%	2%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	57%	21%	14%	5%	1%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	53%	17%	18%	8%	4%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	59%	16%	15%	5%	3%	0%
Q5 教員は熱心に教えていた	69%	14%	12%	3%	1%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	72%	11%	10%	3%	3%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	59%	20%	14%	5%	1%	1%
Q8 私語をつつしんだ	76%	9%	10%	1%	3%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	84%	7%	8%	1%	0%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	74%	14%	9%	2%	0%	1%

図 15 介護福祉学科 1年 (前期満足度)

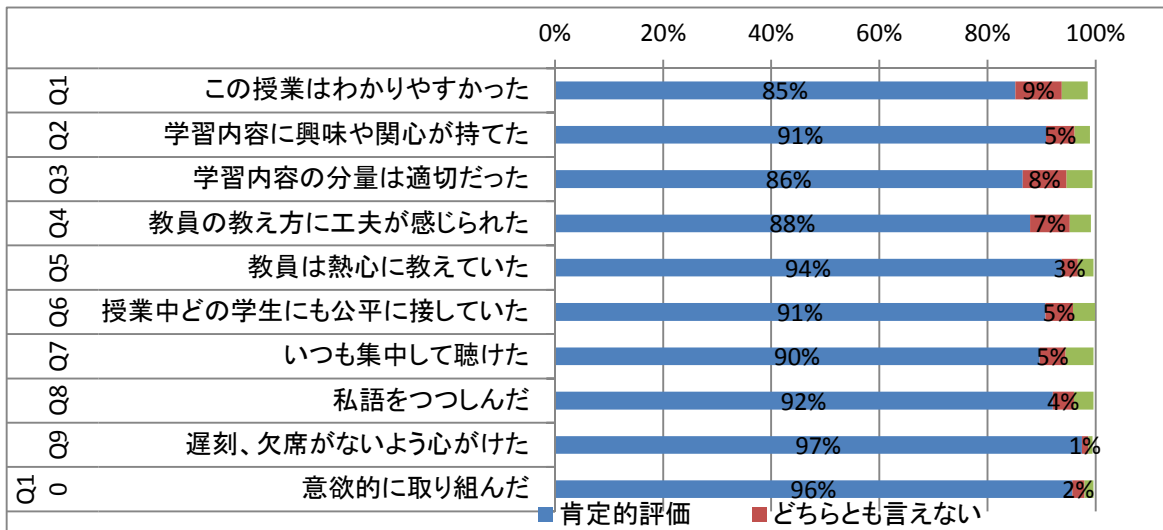
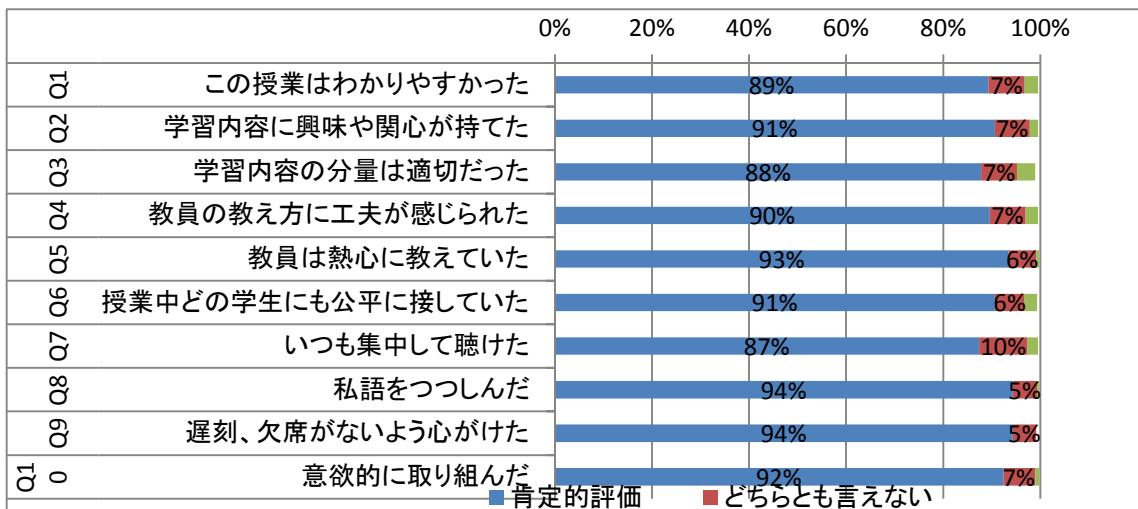


図 16 介護福祉学科 1 年（後期満足度）



8. 介護福祉学科 2 年

前期（表 21、図 17）、後期（表 22、図 18）に示しているとおおり、前期の満足度（肯定的評価）において、教員の授業に対する評価は概ね高い。学生の受講意欲は旺盛である。全ての項目ので否定的評価は数%であり、学生の満足度は高い。介護福祉士養成の科目の多くは体験学習が多く、学生の能力に応じた個別の指導も教員の評価の増加に繋がっている。

後期は、介護福祉学科の行事として「ふくし・ふれ愛ひろば」という別府市内の老人会を招いての催しがある。この練習や就職先の内定（決定）もあり、日々充実した内容となっていることもあり、全ての項目において学生の肯定的評価は95%程度となっている。学生の目標としてきた希望の職種での就職決定は、教員及び学生のともに満足度を上げる。しかし、1年次生と同様に、「とてもそう思う」の評価が前期に比べ低下していることの原因が何かを捉え、改善していく努力を期待したい。慢心せず一層の努力を望む。

表 21 介護福祉学科 2 年（前期）

介護福祉学科2年（前期）

	とても そう 思う	だ いた い そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	74%	16%	7%	2%	1%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	77%	14%	5%	3%	0%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	78%	14%	4%	4%	0%	0%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	76%	15%	6%	3%	0%	0%
Q5 教員は熱心に教えていた	86%	9%	3%	1%	0%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	86%	10%	3%	1%	0%	0%
Q7 いつも集中して聴けた	77%	13%	5%	4%	1%	0%
Q8 私語をつつしんだ	85%	12%	2%	1%	0%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	90%	7%	2%	0%	0%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	84%	12%	2%	1%	0%	0%

表 22 介護福祉学科 2 年（後期）

介護福祉学科2年 (後期)

	とても 思う	だいたい 思う	どちらとも 言えない	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	69%	22%	6%	2%	1%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	72%	20%	4%	2%	1%	0%
Q3 学習内容の分量は適切だった	70%	21%	5%	1%	3%	0%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	71%	19%	7%	2%	1%	0%
Q5 教員は熱心に教えていた	76%	17%	4%	3%	1%	0%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	75%	18%	5%	2%	0%	0%
Q7 いつも集中して聴けた	75%	19%	3%	1%	1%	0%
Q8 私語をつつしんだ	81%	16%	1%	1%	0%	0%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	85%	14%	1%	0%	0%	0%
Q10 意欲的に取り組んだ	79%	18%	1%	1%	1%	0%

図 17 介護福祉学科 2 年 (前期満足度)

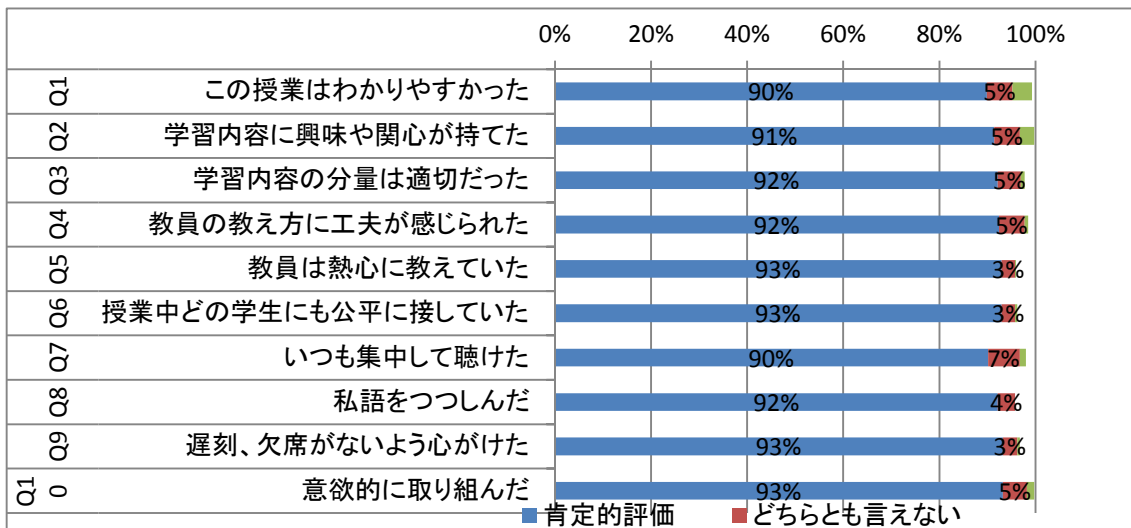
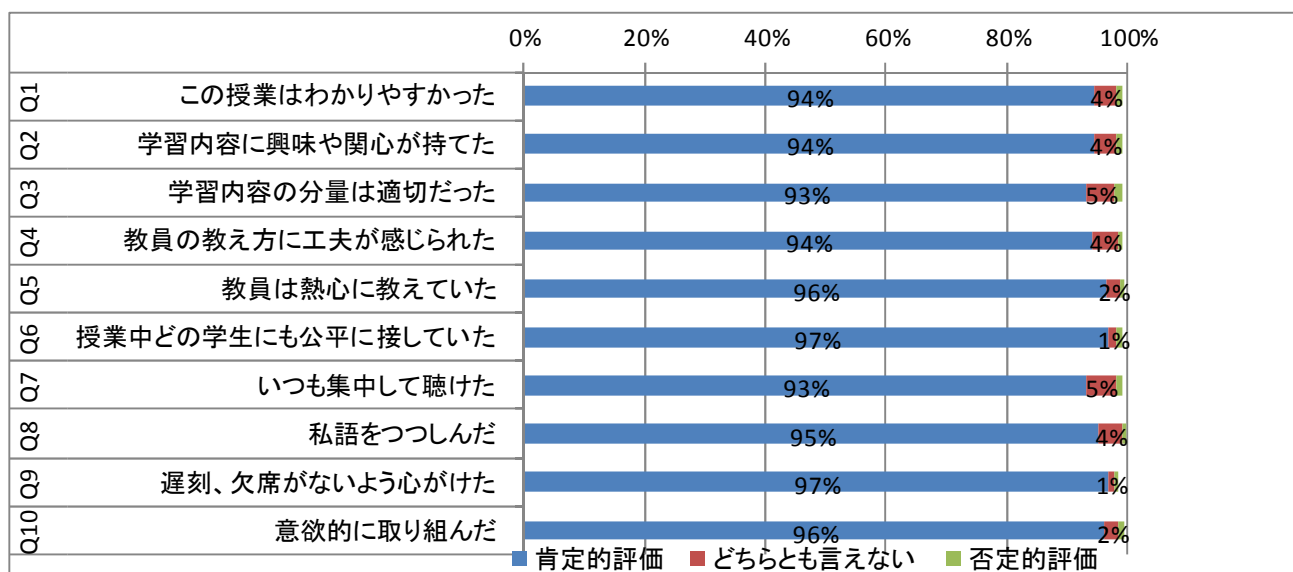


図 18 介護福祉学科 2 年 (後期満足度)



9. 留学生 1 年

前期（表 23、図 19）、後期（表 24、図 20）に示しているとおおり、前期の満足度（肯定的評価）において、教員の授業に対する評価は高い。学生の受講意欲は旺盛である。全ての項目の肯定的評価は 97% を超えている。学生の満足度は極めて高い。否定的な回答が無いことは教員の個別指導が徹底していることを示している。

後期は前期に比べ私語をしている者が見受けられる。しかし、このデータは日本人の授業と異なり前期と後期が逆として見なければいけない。両学生の入学時期が春ではなく、秋となっているからである。後期に比べ前期の肯定的評価が向上していることは学生も日本の授業に慣れ、教員も留学生のニーズを適格に捉え、適切なクラス編成で能力にあった教育を実践できていることと判断できる。教員の一層の努力を期待する。

表 23 留学生 1 年（前期）

留学生1年 (前期)

	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	98%	1%	0%	0%	0%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	98%	0%	0%	0%	0%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	99%	1%	0%	0%	0%	0%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	98%	1%	0%	0%	0%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	99%	0%	0%	0%	0%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	99%	0%	0%	0%	0%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	98%	1%	0%	0%	0%	1%
Q8 私語をつつしんだ	97%	1%	0%	0%	2%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	98%	0%	0%	0%	0%	2%
Q10 意欲的に取り組んだ	99%	0%	0%	0%	0%	1%

表 24 留学生1年 (後期)

留学生1年 (後期)

	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	96%	1%	2%	0%	0%	0%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	96%	1%	1%	1%	0%	0%
Q3 学習内容の分量は適切だった	96%	1%	2%	0%	0%	0%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	97%	1%	2%	0%	0%	0%
Q5 教員は熱心に教えていた	97%	1%	2%	0%	0%	0%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	97%	1%	2%	0%	0%	0%
Q7 いつも集中して聴けた	96%	2%	2%	0%	0%	0%
Q8 私語をつつしんだ	94%	0%	2%	0%	3%	0%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	95%	1%	2%	0%	2%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	97%	1%	2%	0%	0%	0%

図 19 留学生1年 (前期満足度)

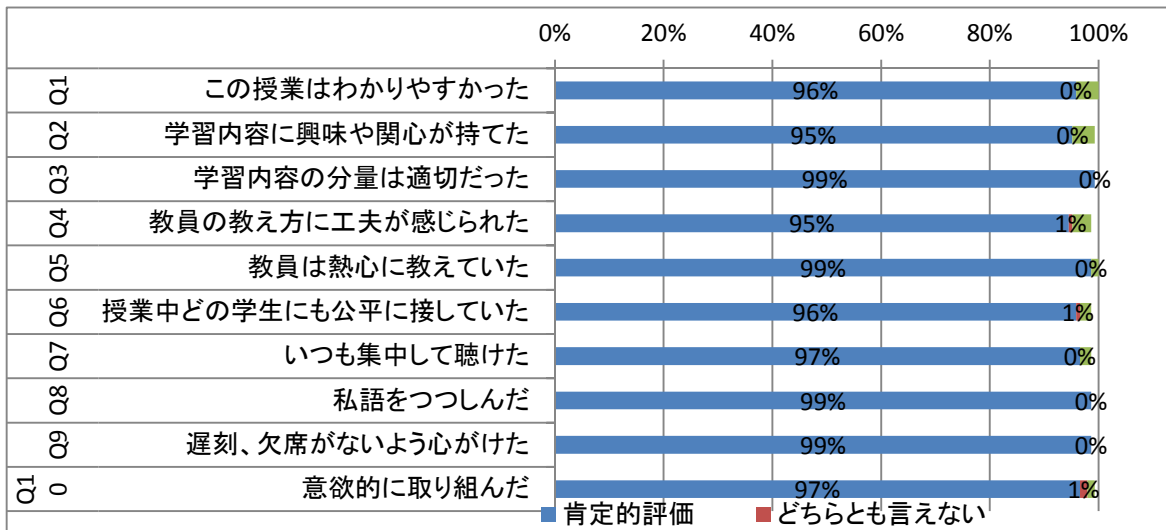
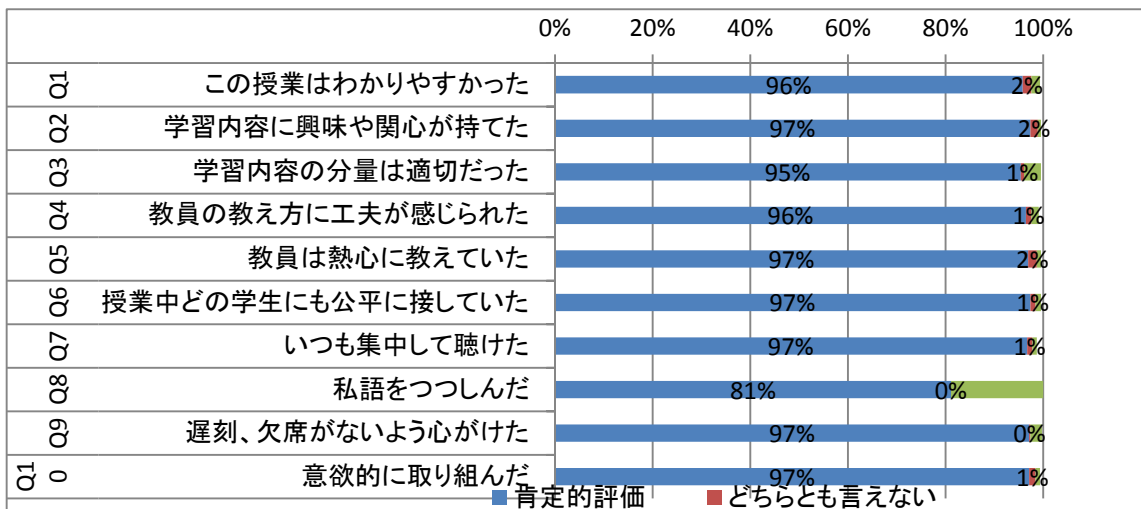


図 20 留学生 1 年（後期満足度）



10. 留学生 2 年

前期（表 25、図 21）、後期（表 26、図 22）に示しているとおおり、前期の満足度（肯定的評価）において、教員の授業に対する評価は高い。学生の受講意欲は旺盛である。全ての項目の肯定的評価は 95% を超えている。学生の満足度は極めて高い。全ての教員

の徹底した個別指導が実を結んでいる。

後期においても、満足度が高い評価を示している。進路が確定し学生の夢が着実に結果となって現れてきていることで、学生の本学での学びの喜びがこの数字として出てきていると感じられる。ただし、「どちらとも言えない」の評価で15%程度の学生が自分自身の受講態度を評価していることは、学ぶ意味を見失っていることか、それともマンネリとなった授業があるのか、教員の学生への個別指導が必要と思われる。

表 25 留学生 2 年（前期）

留学生2年		（前期）					
		とても 思う	だいた いそう 思う	どち らとも 言え ない	あま りそう 思わ ない	ま った くそ う思 わな い	無 回 答
Q1	この授業はわかりやすかった	93%	1%	2%	1%	3%	1%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	95%	1%	1%	0%	3%	0%
Q3	学習内容の分量は適切だった	95%	1%	1%	0%	3%	0%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	96%	1%	1%	0%	2%	0%
Q5	教員は熱心に教えていた	95%	2%	0%	1%	2%	0%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	94%	1%	2%	0%	2%	2%
Q7	いつも集中して聴けた	95%	2%	1%	0%	2%	0%
Q8	私語をつつしんだ	93%	2%	2%	0%	2%	0%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	96%	1%	0%	0%	2%	1%
Q10	意欲的に取り組んだ	92%	2%	1%	1%	5%	0%

表 26 留学生 2 年（後期）

留学生2年		（後期）					
		とても 思う	だいた いそう 思う	どち らとも 言え ない	あま りそう 思わ ない	ま った くそ う思 わな い	無 回 答
Q1	この授業はわかりやすかった	73%	9%	9%	5%	5%	0%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	82%	5%	14%	0%	0%	0%
Q3	学習内容の分量は適切だった	82%	9%	5%	5%	0%	0%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	77%	9%	9%	0%	5%	0%
Q5	教員は熱心に教えていた	77%	9%	14%	0%	0%	0%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	82%	9%	9%	0%	0%	0%
Q7	いつも集中して聴けた	77%	0%	18%	0%	0%	5%
Q8	私語をつつしんだ	82%	0%	18%	0%	0%	0%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	82%	0%	18%	0%	0%	0%
Q10	意欲的に取り組んだ	82%	0%	18%	0%	0%	0%

図 21 留学生 2 年（前期満足度）

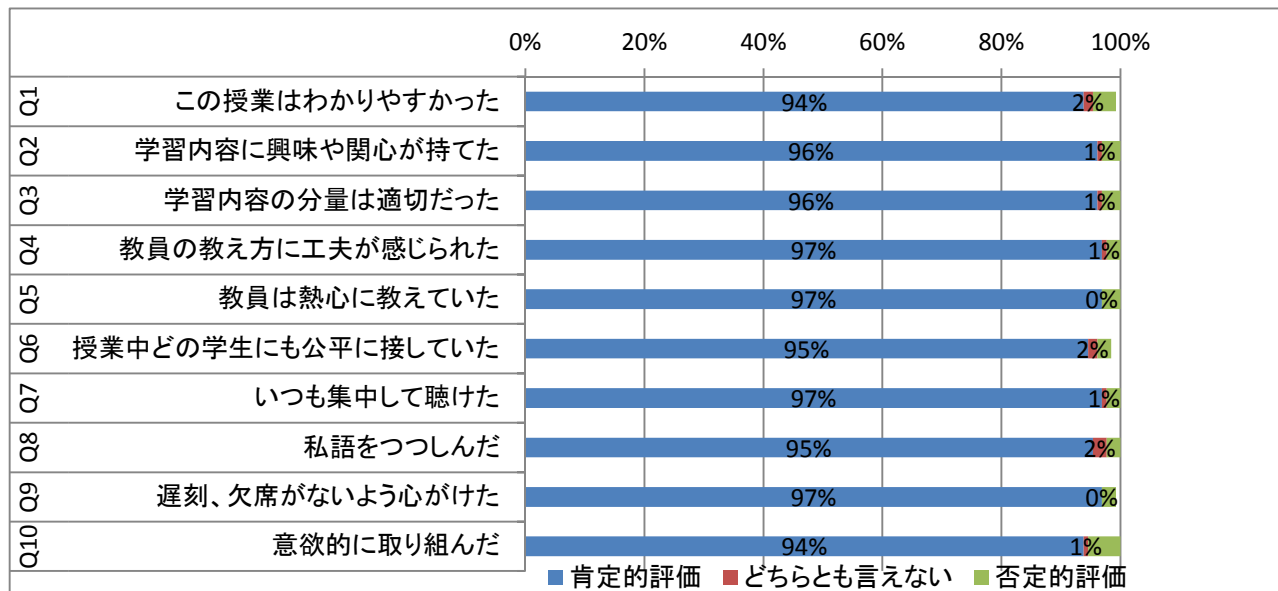
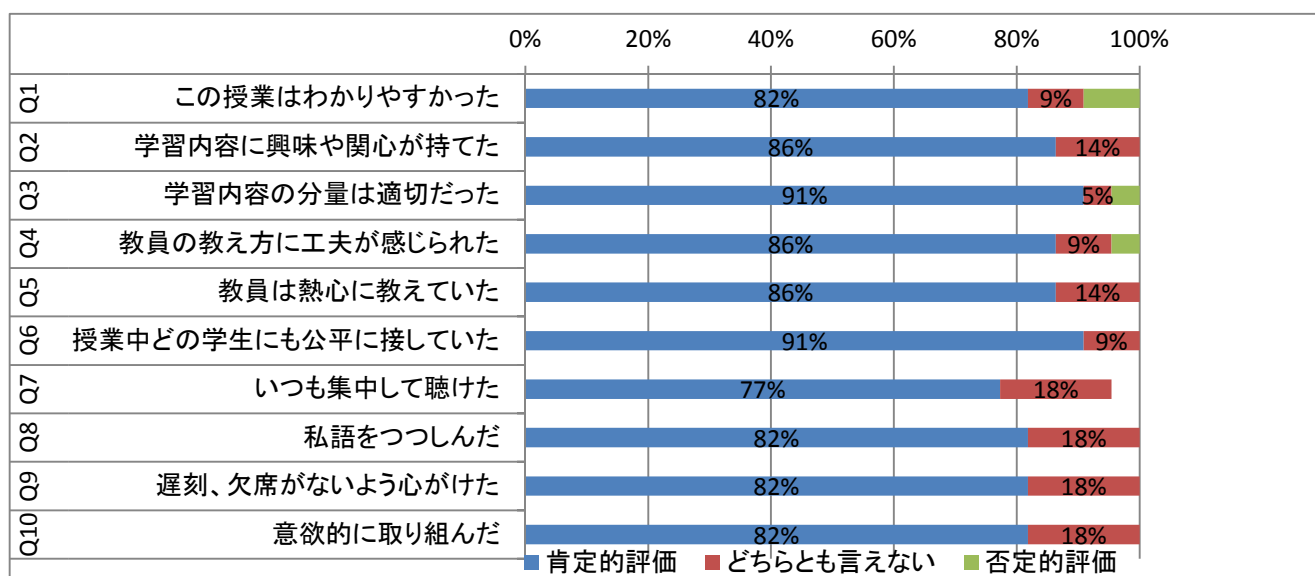


図 22 留学生 2 年（後期満足度）



おわりに

平成 25 年度の学生による授業評価を集計し、分析を試みた。学科の目指す免許・資格等により教育内容は異なる。それを目指し入学してきた学生の個別の学力・能力も異なる。この状況の中、同じ基準で比較はできない。しかし、学生の満足度を高めることは、学科による差は関係ない。全学科に共通した傾向としては、前期の肯定的評価に比べ、後期の肯定的評価は高いことである。このことは教員の努力の賜と言える。

本学の建学の精神である「自立・自活できる人材の育成」を達成するための教育課程として演習・実習授業に力を入れてきている。多くの演習系授業で「アクティブラーニング」を導入し、課題解決力を高めてきている。このことが学生の学ぶ目的を、より一層高めて言っていると思われる。

教育目標の達成するためには、入学してきた学生の将来の夢（職業）をより具体的に明確に示していく中で、就業に必要な知識・スキルの修得が、日々の授業に直結していることを、学生に理解させていく中から生まれる。近年、学生の学力低下については全国的な問題となっている。本学の学生においてもこの状況は否定できない。しかし、2年後にはこの学生1人1人が「自立・自活」する人材となってくれなければ、本学の目標が達成されないだけでなく、地域の高等教育機関としての役割を果たしたことになる。そのため、入学前や入学後の補習授業を行う必要も検討しなければならない。教員が授業内容・方法の改善に叡智を絞り、指導力を向上させる組織的な取り組み（FD）も積極的に行う必要がある。個人の努力を求めつつ、組織的、継続的な努力が期待されている。

本学で、学生による授業評価を導入して13年が経過した。教員は授業に関するPDCAを理解し、真摯な態度で反省、分析、対策を立て、実践し、着実にその成果を挙げてきている。特に、Q5（教員は熱心に教えていた）の項目については、毎年、前・後期とも最上位の肯定的評価となっており、その他の教員側に関係する項目もほとんどが高い評価を得ている。使命感に溢れ、強い教育的愛情をもったきめ細かい指導は殆どの学生に好意的に受け止められている証である。

しかし、授業について行けない学生が少数ではあるが存在している事実も受け止めるべきである。冷静に自己評価して改善の途を模索し、学生の期待に応え得る資質能力を身に付けなければならないことはいままでもない。授業公開等FD研修の積極的な活動を推し進めることも、問題点の解決の一方策である。今回のアンケート結果が、明日の明るい途となることを期待する。